

なかがわ

那珂川町郷土史研究会

探訪 89

裂田溝16

小柳地区周辺

の間しか見ることができません。

この橋は6月以降、田んぼへ水を送るための大変な役割を担います。川幅は橋げたの石積みによって半分まで狭められていますが、

ここを狭くすることで水は勢いが強まります。10m下流の木下堰でせき止められた水は手前の土管

から道路下を横切り田んぼへと流れ込みますが、田んぼは水面より高く、水を上げるには勢いが必要です。田んぼを耕して、初めて水を入れることを「荒水」と言いますが、

緩やかな流れの水をせき止めてもじわじわとしか流れません。勢いのついた水を送ることによつて、

裂田溝は、6月初旬に行われる

一の井堰の水門神事「唐戸開き」か

ら満々と水をたたえ、一本の動脈となつて周囲の田んぼへと勢いよく水を運びます。

「汲ん場-ネ」は上段部分だけを水面にのぞかせ川面に映る木々の緑の中で自分の存在を一生懸命アピールしています。かつての鍋や釜を洗う光景の一部は、昔の姿のまま生活の中に引き継がれ、貴重な農村風景として残されています。

すぐ下流にある「橋-9」は、独特の橋げたを持つた石橋です。川幅の半分までせり出した石積みは、水の少ない10月から翌年5月まで

下区の農家は大変だな」と思つてゐたそうです。今でも下流域の人たちは田植えが終わると伏見神社に参り、無事に終わつたお礼とこれから水の恵みを願い、五穀豊穣を祈願されています。

「橋-9」を渡つた屋敷の中には「那珂川八十八ヶ所67番札所」の「汲ん場-ネ」があります。次号は「汲ん場-ナ」から紹介します。

美しい落ち水が広がり、小さなしづきからマイナスイオンを少しだけもらつたような幸せな気分になつてきます。この辺りは、週末になるとカメラを持って散策を楽しむ人スケッチブックに絵筆を動かす人などにぎわいます。農林水産省の「疎水百選」に選ばれた、那珂川町自慢のスポットの一つでもあります。

木下堰が始まる6月から稻刈り前まで、このような美しい流れが見られます

川掃除が終わり、樹木をせん定されている夫婦



汲ん場-ネ
川掃除が終わり、樹木をせん定されている夫婦



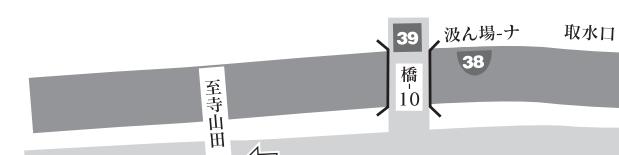
取水口-③ 木下堰
田植えが始まる6月から稻刈り前まで、このような美しい流れが見られます



取水口-③ 木下堰の石柱
水の流れが少ないと、堰の仕組みを見ることができます



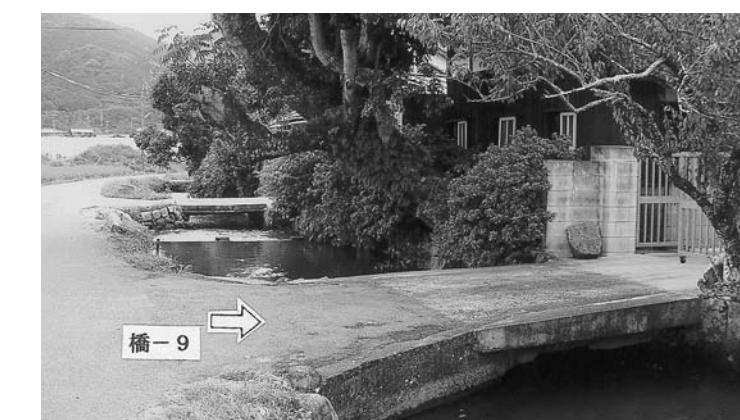
裂田溝の清掃の日
溝の水を止め、山田区の住民総出で清掃が行われます



橋-9側にある蔵とタブノキ
明治時代に建てられた蔵と溝沿いに立つタブノキ、ツツジ、ツバキ、カキ、ウメ、ヤマブキ、サザンカ、アジサイ



十一面観音「那珂川八十八ヶ所67番札所」



橋-9
水の勢いを調節するため、この橋げたの半分まで石積みされています



汲ん場-ネ
溝になると、最上段の石だけが頭をのぞかせます